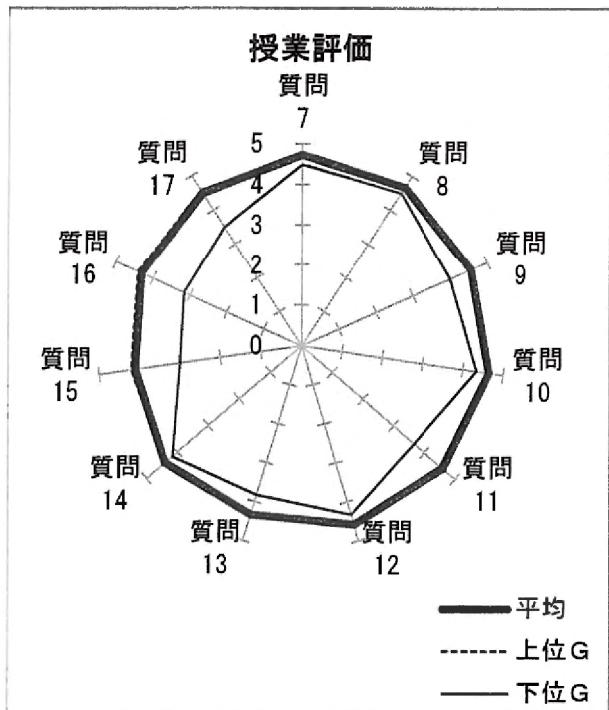


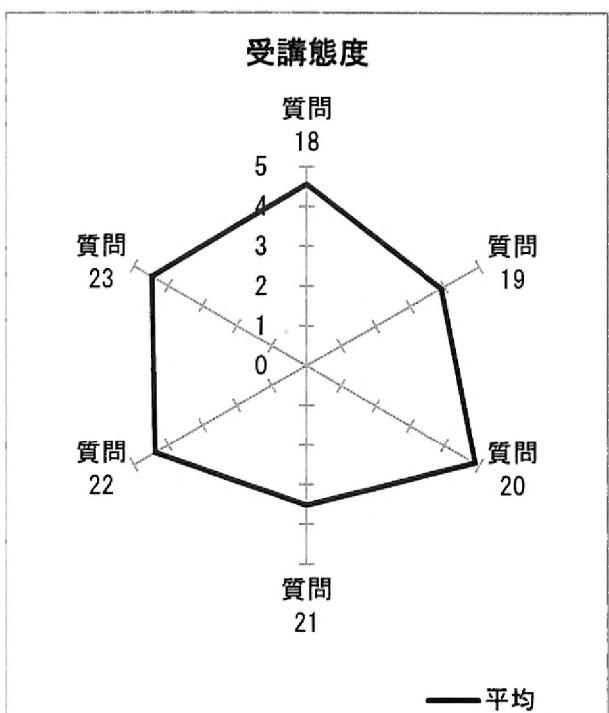
科目コード 948 (2017年度 後期)

看護学部 看護学科 幸 史子 看護倫理



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.7	4.8	4.5
質問 8	4.7	4.7	4.5
質問 9	4.6	4.6	4.0
質問10	4.6	4.7	4.3
質問11	4.6	4.7	3.7
質問12	4.6	4.6	4.3
質問13	4.3	4.4	3.8
質問14	4.4	4.4	4.2
質問15	4.1	4.2	3.0
質問16	4.3	4.4	3.2
質問17	4.5	4.6	3.5
平均	4.5	4.5	3.9

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.6
質問19	3.9
質問20	4.9
質問21	3.5
質問22	4.4
質問23	4.5
平均	4.3

- 質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
看護学部	看護学科	幸 史子	看護倫理	77名

2017年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

上位グループと下位グループで、差が大きかったのは、問15・16・17であった。これは、倫理という科目が、明らかな答えを求めるものではなく、考え方を問うものであり、思考プロセスが学生に充分伝わっていなかつたのではないかと考える。また、医療倫理・看護倫理・研究倫理は重要であるとともに、1年生に深く理解を求めるのは難しかつたかもしれない。

更に、これまで思考の訓練をつんでいない学生にとっては、グループワークでの積極的な参加は難しかつたかもしれないと考える。

II. 2018年度に向けての取り組み

2018年度担当予定科目名：なし

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

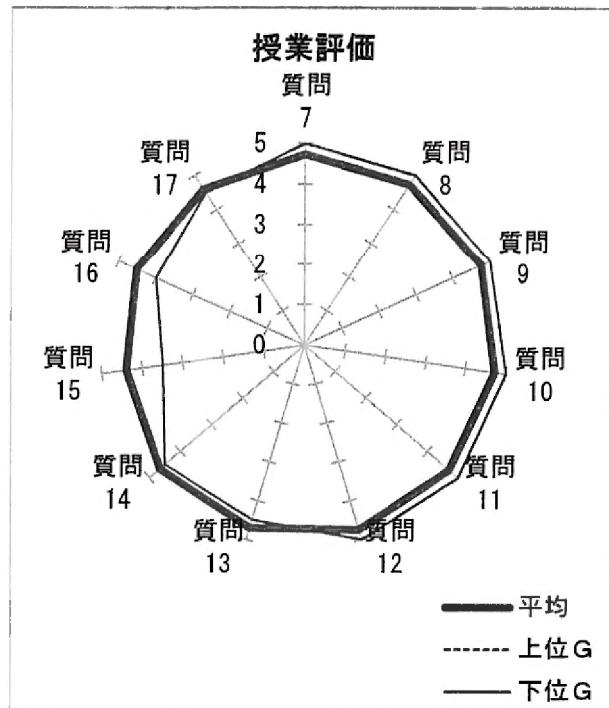
講義に具体的な事例や、DVDを導入し、より理解しやすい方法を検討する必要がある。

単元ごとに知識の確認として、事例展開をグループで取り組むなどの方法の検討が必要である。

以上

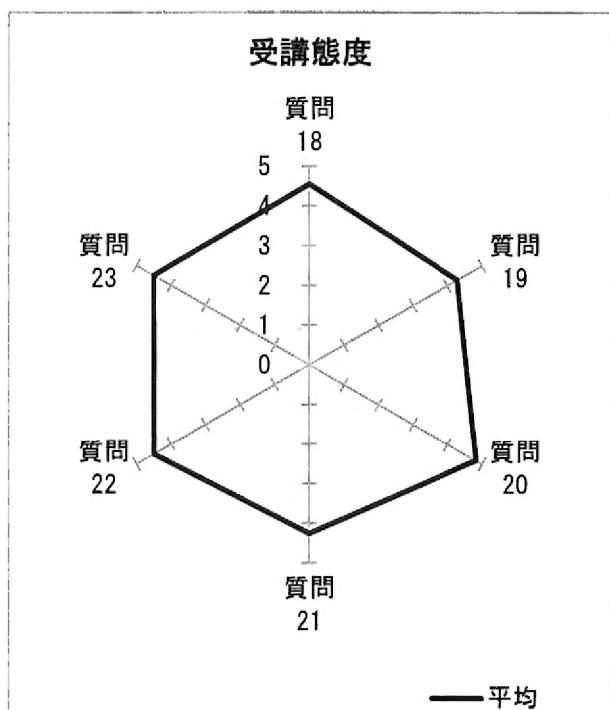
科目コード 951 (2017年度 後期)

看護学部 看護学科 黒木 智鶴 基礎看護技術IV



質問項目	平均	上位G	下位G
質問7	4.7	4.7	5.0
質問8	4.7	4.7	5.0
質問9	4.8	4.8	5.0
質問10	4.7	4.7	5.0
質問11	4.7	4.7	5.0
質問12	4.7	4.7	5.0
質問13	4.7	4.7	4.5
質問14	4.7	4.7	4.5
質問15	4.4	4.4	3.5
質問16	4.5	4.5	4.0
質問17	4.6	4.6	4.5
平均	4.7	4.7	4.6

- 質問7：授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問8：教員の授業時間遵守
- 質問9：教員の話し方
- 質問10：教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11：教員の説明のわかり易さ
- 質問12：教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
- 質問13：質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14：学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15：（自分は）授業を理解できたと思うか
- 質問16：授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17：新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.6
質問19	4.3
質問20	4.8
質問21	4.3
質問22	4.5
質問23	4.5
平均	4.5

- 質問18：（自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19：授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20：欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
- 質問21：授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22：レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23：私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
看護学部	看護学科	黒木智鶴	基礎看護技術IV	74

2017年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

基礎看護技術IVについては、授業評価の平均は4.7、受講態度は4.5であった。静脈血採血の技術確認、筋肉内注射の技術確認を行ったが昨年度より合格者が多かった。要因としては、試験日を演習実施日から2週間後としたことや学生が主体的に学ぶことができるようループリック評価表を活用したこと。さらに、事前課題に動画の視聴を取り入れたことによって看護技術のイメージができた状態で演習に臨めたことが挙げられる。

しかし、定期試験では再試験対象となった学生がおり講義・演習で学んだことが定着していない可能性が示唆された。定期試験は学生が教科書や資料を調べることで理解できる内容が多くを占めている。この知識と習得すべき技術、態度についてどのように評価をしていくかを考えていく必要がある。

II. 2018年度に向けての取り組み

2018年度担当予定科目名：基礎看護技術IV

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

2017年度の反省を踏まえて、教育内容を見直し知識と習得すべき技術、態度、診療時の援助技術において必要な実施までの判断を抽出し、どのように評価するのか、教育方法の検討を行った。

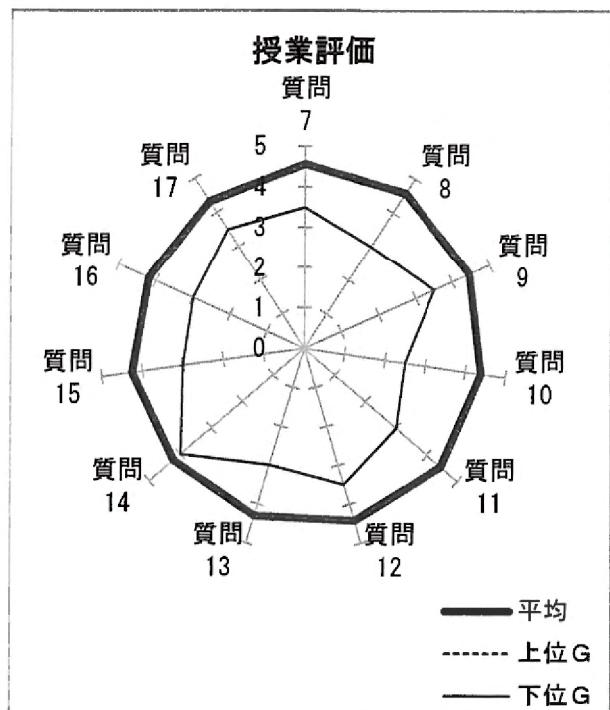
教育方法としては、インストラクショナルデザイン（ゴールドメソッド）、ジクソー法を活用し、学生が主体的に学べるように教育方法を工夫していく。特に2017年度までは教育内容として十分ではなかった診療時の援助技術を行うまでの判断を学生が学べるようにしていく必要がある。

さらに、科目の時間数が45時間から30時間となったこともありインストラクショナルデザインを活用する必要がある。

技術確認については、2017年度と同様にループリック評価表を活用すること演習2週間後の技術確認は今までと同様に行っていく。

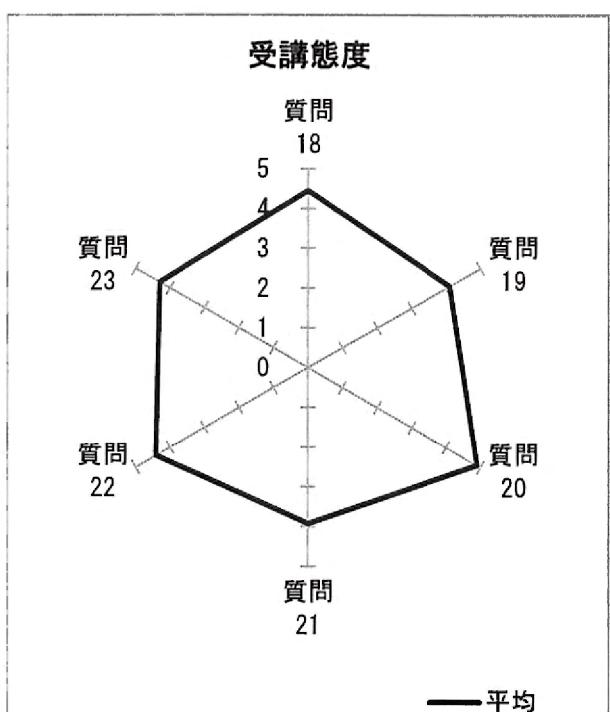
科目コード 952 (2017年度 後期)

看護学部 看護学科 幸 史子 フィジカルアセスメント



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.6	4.6	3.5
質問 8	4.6	4.6	3.0
質問 9	4.5	4.5	3.5
質問10	4.4	4.5	2.5
質問11	4.5	4.5	3.0
質問12	4.4	4.5	3.5
質問13	4.3	4.3	3.0
質問14	4.2	4.2	4.0
質問15	4.3	4.3	3.0
質問16	4.2	4.2	3.0
質問17	4.3	4.4	3.5
平均	4.4	4.4	3.2

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.5
質問19	4.1
質問20	4.9
質問21	3.9
質問22	4.4
質問23	4.3
平均	4.3

- 質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
看護学部	看護学科	幸 史子	フィジカルアセスメント	74名

2017年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

上位グループと下位グループで、平均の差が大きく、特に質問10については、2.0ポイントの差がみられた。

フィジカルアセスメントは、解剖生理学や栄養代謝などの1年次の基礎知識がなければ理解が難しい科目であり、どのように積み重ねてきたかで理解度に差が出たのではないかと考える。

また、講義と演習の組み合わせで授業の組み立てを行っているが、講義内容と演習がつながっていない学生も見られた。一方、予習・復習を丁寧に行っている学生は、理解度も高く、演習もまじめに取り組む姿勢が伺われた。

このように、1年次からの知識の積み重ね方と予習・復習の有無が、上位グループと下位グループの差が大きくなった理由ではないかと考える。

つまり、学生によっては自己学習の進め方も充分習得していない者もいるということが明らかになった。よって、講義や演習において知識の確認を自発的に行うような取り組みが必要である。

II. 2018年度に向けての取り組み

2018年度担当予定科目名：フィジカルアセスメント

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

これまで演習時は、教科書持込で実施しており事前学習を行っていなくても演習は実施可能であった。今回は、演習時に教科書持込を禁止し、事前にレポートに自己学習したものを持参することとする。また、グループワークをより効果的に実施するために、事前に事例を提供し、フィジカルアセスメントに必要な手技については、グループで手技の確認を行ってくることとした。

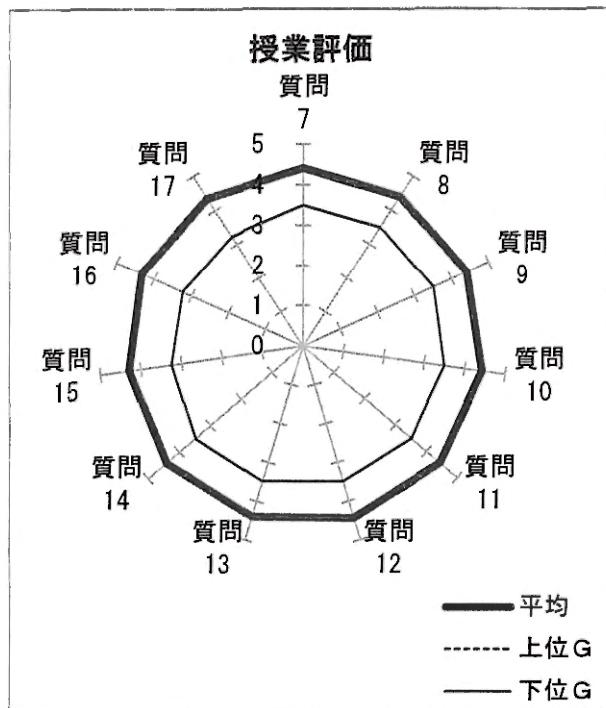
更に、演習時間内にグループ討議の時間を設け、アセスメントの結果を検討し発表することとする。事前学習については、DVDや教科書のQRコード、参考資料を紹介する。また、問診の技術においては模擬患者さんの協力を得ることを計画するとともに、シミュレーターの活用を増やして行きたい。この取り組みにより、グループダイナミクスが効果的に働くと考える。

講義についても、解剖生理学、栄養代謝の知識再補充のための時間は最小限度とし、毎回事例を提供し、事例展開の中でフィジカルアセスメントの理解ができるように取り組みたい。

以上

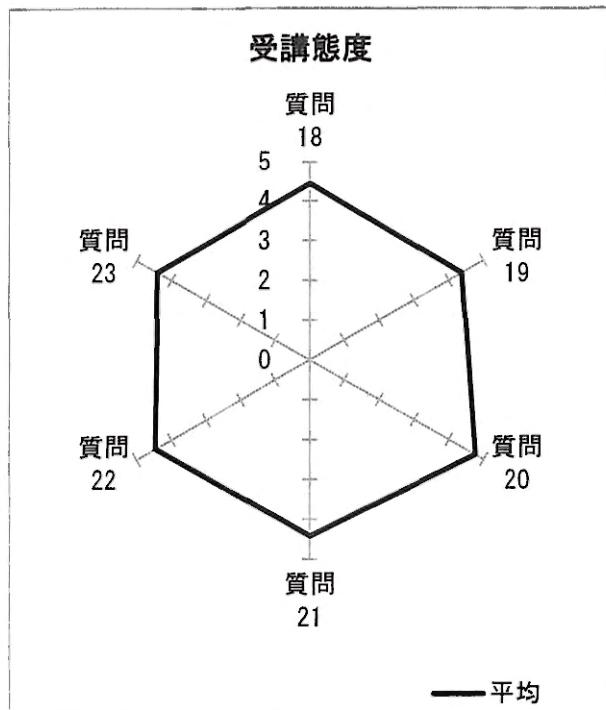
科目コード 953 (2017年度 後期)

看護学部 看護学科 大曲 純子 成人看護学方法論 I



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.4	4.5	3.5
質問 8	4.4	4.5	3.5
質問 9	4.4	4.5	3.5
質問10	4.4	4.5	3.5
質問11	4.4	4.5	3.5
質問12	4.4	4.5	3.5
質問13	4.4	4.5	3.5
質問14	4.4	4.5	3.5
質問15	4.3	4.4	3.3
質問16	4.3	4.4	3.3
質問17	4.4	4.4	3.3
平均	4.4	4.5	3.4

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.4
質問19	4.4
質問20	4.8
質問21	4.4
質問22	4.5
質問23	4.4
平均	4.5

- 質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
看護学部	看護学科	大曲、岡田、堀川、阿部	成人看護学方法論Ⅰ	74

2017年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

1. 授業評価

質問7～17は、96.6～100%の学生が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えており、平均値は4.3～4.4であった。質問項目の中で4.3であったのは、「質問15：(自分は)授業を理解できたと思うか」、「質問16：授業は興味・関心・意欲を引き出したか」という項目であった。講義は、器官系統別で疾患に応じた周手術期看護について講義している。事前学修を提示し臨床病態治療学で学習した疾患について復習してもらってから講義を行っているが、術前・術中・術後の周手術期の患者の状態の変化を捉え理解することが難しく、毎回違う疾患で周手術期の看護を講義しているため、学習内容も多く理解するには難しさを感じていたのではないかと考える。そのため理解が深まらず、授業に興味・関心・意欲を引き出すことができない学生もいたのではないかと考える。

2. 受講態度

質問18～23は、96.6～100%の学生が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えており、平均値は4.4～4.8であった。しかし、「質問21：授業の予習・復習をおこなったか」については平均値が4.2で低い結果であった。しかし学生には事前課題、授業終了後的小テストを行っており、「質問22：レポート・課題等に積極的に取り組んだか」では4.5を取り組めており、高い評価であったことから、授業の予習、復習につながっているのではないかと考えるが、予習、復習とどちらでもない学生もいたと考える。

II. 2018年度に向けての取り組み

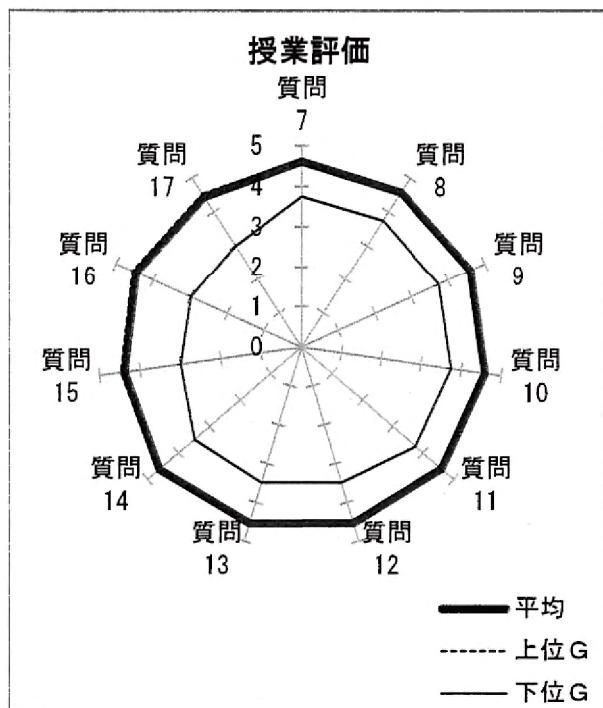
2018年度担当予定科目名：成人看護学方法論Ⅰ

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

講義では毎回違う疾患の周手術期の看護を講義しているため、毎回の講義で学ぶことが多く理解が伴わないままでは、学生の負担感が大きかったのではないかと考える。来年度は急性期・回復期に特徴的な生体侵襲を踏まえた一般的な周手術期（術前・術中・術後）看護について時間をかけて授業を行い、それを踏まえて疾患に応じた急性期・回復期の看護を行っていく。急性期でおさえる疾患を吟味し、学生の理解度を把握しながら授業を進めていくことが必要であると考えている。事前課題、授業終了後的小テストは継続していく。

科目コード 954 (2017年度 後期)

看護学部 看護学科 山口 智美 高齢者看護学方法論



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.6	4.7	3.8
質問 8	4.6	4.6	3.8
質問 9	4.6	4.7	3.8
質問10	4.6	4.6	3.8
質問11	4.6	4.6	3.8
質問12	4.5	4.6	3.5
質問13	4.5	4.6	3.5
質問14	4.6	4.7	3.5
質問15	4.4	4.5	3.0
質問16	4.5	4.6	3.0
質問17	4.4	4.5	3.0
平均	4.5	4.6	3.5

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施

質問 8 : 教員の授業時間遵守

質問 9 : 教員の話し方

質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用

質問11 : 教員の説明のわかり易さ

質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）

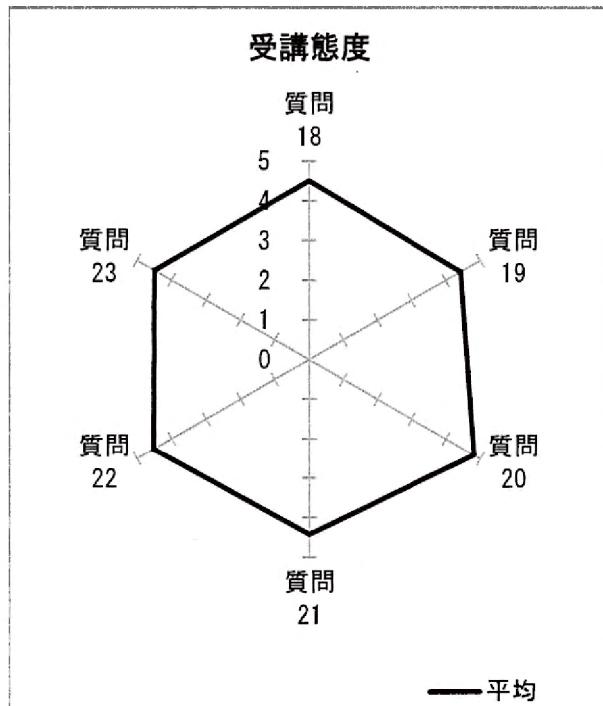
質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応

質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映

質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか

質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか

質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.5
質問19	4.4
質問20	4.8
質問21	4.4
質問22	4.5
質問23	4.5
平均	4.5

質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか

質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか

質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）

質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか

質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか

質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
看護学部	看護学科	山口智美 馬場保子	高齢者看護学方法論	74

2017年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

総得点平均は4.5ポイントであった（回答者数66名）。講義や講義環境等に関する項目では、全体の95%以上が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と評価した。学生自身の授業態度及び取り組みを問う項目では、全体の6~7%が「どちらかというとそう思わない」と回答した。平均が4.4ポイントと4.5ポイントを下回った項目は「（自分は）授業を理解できたと思うか」「新しい知識・技術・理論等の習得への有用性」「授業内容や到達目標意を理解して受講したか」「授業の予習・復習を行なったか」であった。

本科目は高齢者看護専門分野の科目として、人体の構造と機能、薬理学、病態などの基礎知識や高齢者看護学概論での学びを積み重ねて看護実践に備える具体的な知識を教授するものである。本調査内容では顕在化しないが、2年次修了時点における学生の到達度でも病態治療学と薬理学の知識が看護ケアにとって重要な症状観察やリスク観察に繋がる、という理解に至っていないと思われる状況にあり、そのことに加えて高齢者の加齢変化や身体的、精神的、社会的変化を捉えて学ぶことを期待される本科目の難易度は低くない。既習科目的理解が不十分な学生は復習が不可欠であったといえる。また、生活中で日常的に高齢者と関わる機会が希薄な世代であり、高齢者の一般的な理解が容易ではないという背景もある。

これらの評価及び学生のレディネスを踏まえ、2018年度高齢者看護方法論演習及び高齢者看護学実習Iの教育指導・学習支援を行なうべく準備したい。同時に学生には引き続き既習科目の復習と現在進行中の科目を繋げて理解することの重要性を促し、自立した学習者としての学習態度を身につけてもらうように促すこととする。また、大村市と実施している介護予防教室ボランティア活動への参加を呼び掛け、高齢者と関わる機会を提供したい。

学生の6~7%は受講態度或いは予復習で4.5ポイントを下回っていた。しかし、全体的な受講態度は良好かつ熱心であり、積極的だったといえる。授業中に挙手がない場合でも、アクションシート（毎講義後のフィードバックシート）からは興味関心を持って受講していたことがうかがい知れた。

II. 2018年度に向けての取り組み

2018年度担当予定科目名：高齢者看護学方法論

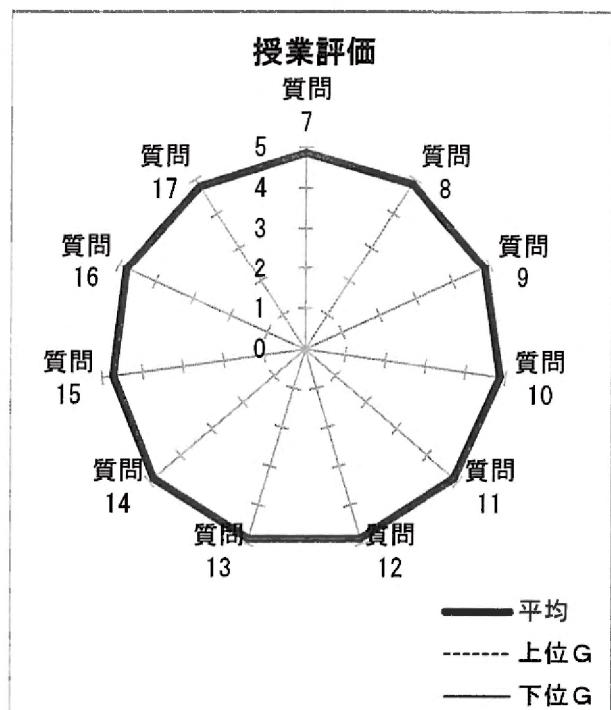
(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

今年度評価が良好であった点を更に強化し、改善するために以下に取り組む。

- ・オムニバス講義間の繋がりが学生に理解できるように、教員間の連絡・コミュニケーションを維持・向上する。
- ・講義の最後には次回の講義内容等を伝えて予習を促す。
- ・講義が既習科目のどの部分と繋がるのかを示し、復習を促す。
- ・アクションシートの活用を継続し、学生とのコミュニケーションを維持・向上する。
- ・視覚教材を活用し、学生の高齢者のイメージ作りを促す。

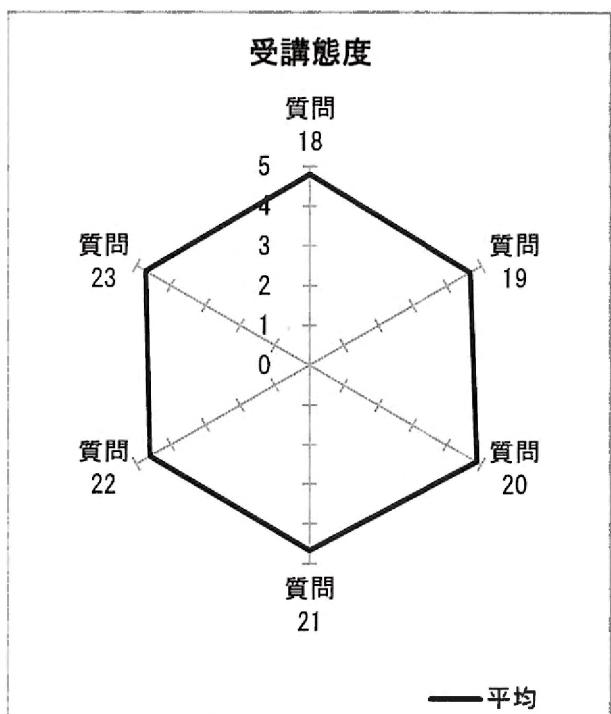
科目コード 961 (2017年度 後期)

看護学部 看護学科 中村 寿子 公衆衛生看護学方法論Ⅱ



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.9	4.9	#DIV/0!
質問 8	4.9	4.9	#DIV/0!
質問 9	4.9	4.9	#DIV/0!
質問10	4.9	4.9	#DIV/0!
質問11	4.9	4.9	#DIV/0!
質問12	4.9	4.9	#DIV/0!
質問13	4.9	4.9	#DIV/0!
質問14	4.9	4.9	#DIV/0!
質問15	4.7	4.7	#DIV/0!
質問16	4.8	4.8	#DIV/0!
質問17	4.8	4.8	#DIV/0!
平均	4.8	4.8	#DIV/0!

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.8
質問19	4.7
質問20	4.9
質問21	4.7
質問22	4.6
質問23	4.7
平均	4.7

- 質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
看護学部	看護学科	中村寿子	公衆衛生看護方法論Ⅱ	15名

2017年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

公衆衛生看護技術である保健指導、家庭訪問の実践力を修得するため、事例を設定し、支援の展開を演習した。

授業評価は、平均4.8点であった。項目別を見ても、大きな差はないことから、知識や技術の習得はだいたいできたのではないかと考える。

受講態度についても特に問題はなかったが、自分自身の課題やレポートに対する取組みについて低く評価しているものも数名みられた。

II. 2018年度に向けての取り組み

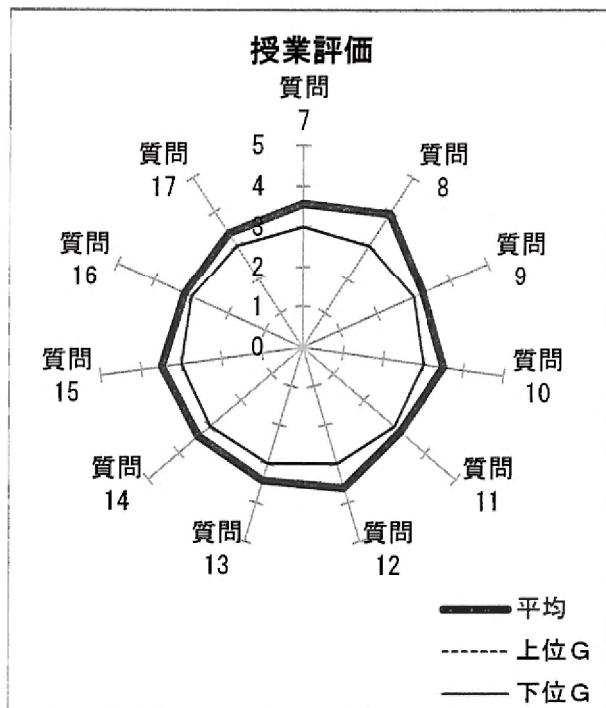
2018年度担当予定科目名：公衆衛生看護方法論Ⅱ

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

学生が興味をもって取り組めたことを評価し、事例の設定等に工夫やバリエーションを増やし、次年度もこの授業構成で望みたいと思う。

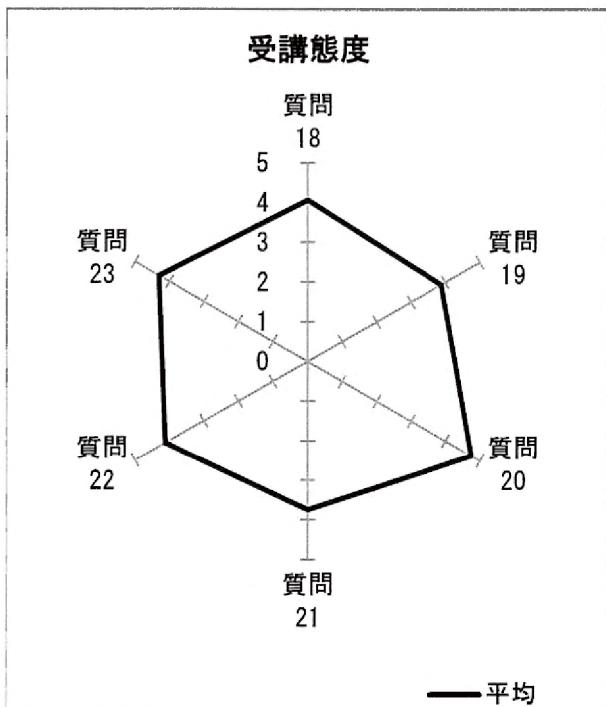
科目コード 969 (2017年度 後期)

看護学部 看護学科 原岡 智子 公衆衛生看護学管理論



質問項目	平均	上位G	下位G
質問7	3.6	3.6	3.0
質問8	3.9	4.0	3.0
質問9	3.3	3.3	3.0
質問10	3.5	3.5	3.0
質問11	3.2	3.2	3.0
質問12	3.6	3.7	3.0
質問13	3.4	3.5	3.0
質問14	3.4	3.4	3.0
質問15	3.5	3.5	3.0
質問16	3.2	3.2	3.0
質問17	3.4	3.4	3.0
平均	3.4	3.5	3.0

- 質問7：授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問8：教員の授業時間遵守
 質問9：教員の話し方
 質問10：教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11：教員の説明のわかり易さ
 質問12：教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
 質問13：質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14：学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15：（自分は）授業を理解できたと思うか
 質問16：授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17：新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.1
質問19	3.9
質問20	4.8
質問21	3.8
質問22	4.1
質問23	4.3
平均	4.1

- 質問18：（自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19：授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20：欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
 質問21：授業の予習・復習をおこなったか
 質問22：レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23：私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
看護学部	看護学科	原岡	公衆衛生看護学管理論	15名

2017年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

本科目の履修学生は3年生からの保健師選択コースの学生15名である。選択コースでは、3年次・4年次のコースの全科目を通して、保健師に求められる知識や実践能力など卒業時の到達目標の修得のために授業計画を立案している。本科目の公衆衛生看護学管理論は、個人から地域の公衆衛生看護活動の目標のために新人保健師から総括保健師が必要な手段・人・予算・組織などを活用しマネジメントを行なうことを教授しており、講義だけでは個人保健計画理解し難い部分が多い。そこで前期の公衆衛生看護実習I（行政実習）において、実際どのように行なわれているかを実習施設の保健師から説明を受けるようにしていたが、説明内容にかなりの差があり、説明がなかった実習施設もあった。講義では、実習を振り返りながら説明したり、特に全実習施設で説明がなかった職位的保健師や県が統括して行なっている管理については事例を活用したりと、なるべく分かりやすいように心がけていたが、興味や関心が引き出しづらく、どちらかといえば分かりにくいも含め分かりにくいと答えた学生がいた。毎回講義の中でわかりにくい点があるかどうかを尋ねるも、質問はなかつたが、前回の講義内容を振り返る時間を設けた。

II. 2018年度に向けての取り組み

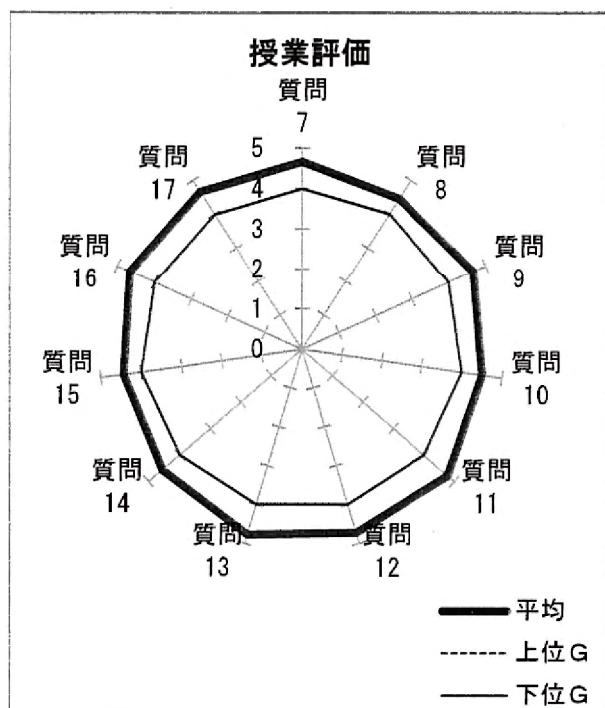
2018年度担当予定科目名：公衆衛生看護学管理論

（同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。）

公衆衛生看護実習I（行政実習）での現場の保健師からの説明は、講義内容が分かるための1つの方法だと考える。よって本年度の分析評価を活かして、2018年度は公衆衛生看護実習I（行政実習）で、職位的保健師や県が総合的に行なう管理について実習施設の保健師に説明していただくことを依頼する。講義では、多く事例を紹介する、実習内容を振り返る、講義中に問題を解いてもらい学生の理解度を確認して説明するなど、分かりやすい説明になるようにする。学生がりして、また、グループワークを行いながら保健計画を策定し、その過程で公衆衛生看護管理を理解するような取り組みをする予定である。

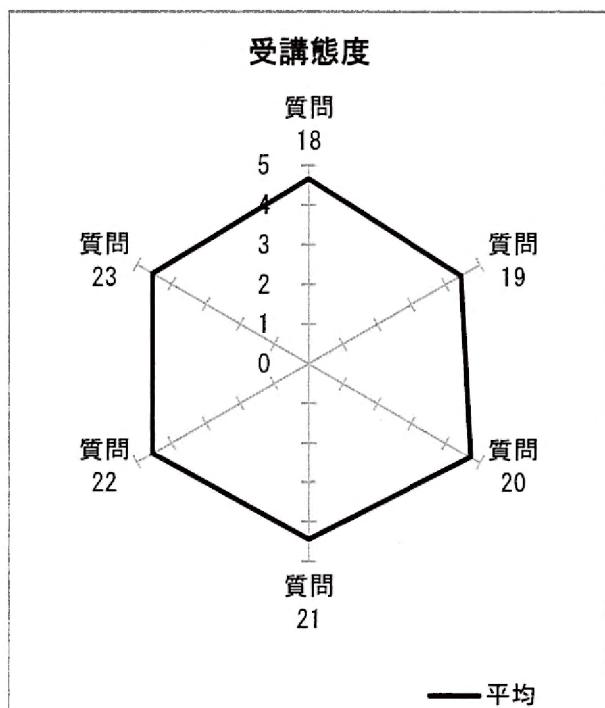
科目コード 970 (2017年度 後期)

看護学部 看護学科 山口 智美 ゼミナールVI



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.7	4.7	4.0
質問 8	4.4	4.5	4.0
質問 9	4.7	4.7	4.0
質問10	4.5	4.5	4.0
質問11	4.8	4.8	4.0
質問12	4.7	4.8	4.0
質問13	4.8	4.8	4.0
質問14	4.6	4.6	4.0
質問15	4.4	4.5	4.0
質問16	4.7	4.7	4.0
質問17	4.7	4.7	4.0
平均	4.6	4.7	4.0

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.7
質問19	4.4
質問20	4.7
質問21	4.4
質問22	4.6
質問23	4.6
平均	4.6

- 質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
看護学部	看護学科	山口智美 平松美紀	ゼミナールVI 国際保健	19

2017年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

総得点平均は4.6ポイントであった（回答者数17名）。講義や講義環境等に関する項目では、特に「教員の説明のわかり易さ」「質問機会の確保と質問への適切な対応」が4.8ポイントと高かった。全項目9割以上が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と評価した。学生自身の授業態度及び取り組みを問う項目において「どちらかというとそう思わない」と回答した者はおらず、平均4.6ポイントと良好で積極的な学習態度であった。その中で特に「（自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか」は4.7ポイントと一番高く、「授業内容や到達目標を理解して受講したか」「授業の予習・復習をおこなったか」は4.4ポイントだった。

本科目は看護学統合分野の選択科目である。講義の他に年度末に実施される海外研修がある。講義内容は海外のヘルスケアシステムや異文化間看護を学びながら、日本のヘルスケア及び健康問題を捉えるだけでなく、自文化を意識することで他文化を受容・尊重する視点を養うねらいがある。また、国内の国際化・多文化共生の視点も学んでいる。一部英語を活用した講義を取り入れていることから、学生は予習が必要な部分もあったと予想する。このような内容から本科目は学生の興味を刺激するものではあったと思うが、一方では積極的に学び挑戦することを求められた。本講義での学びが海外研修で活かされることを意識した構成となっており、実際に海外研修終了後の学生からの高評価に繋がっていた（本調査と別の調査）。

本評価及び学生のレディネスを踏まえ、2018年度ゼミナールVI（国際保健）の講義内容及び学習支援準備を行う。また、学生には自立した学習者として引き続き自主的に他国の社会情勢及び健康問題について興味関心を持って学ぶことや英語を活用するように促したい。また、後期は3年次後期各論実習と平行して展開しているため、講義開始時間や講義時間確保には十分配慮する必要がある。

II. 2018年度に向けての取り組み

2018年度担当予定科目名：ゼミナールVI（国際保健）

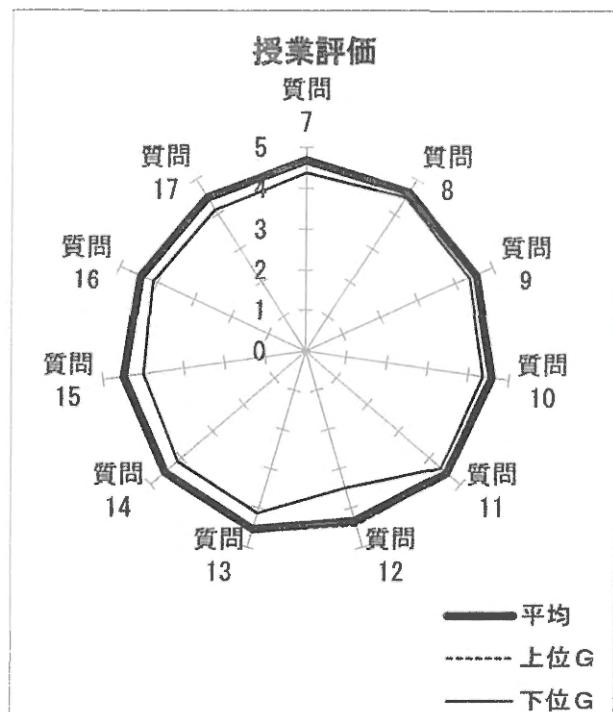
（同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。）

今年度評価が良好であった点を更に強化し、改善するために以下に取り組む。

- ・講義の最後には次回の講義内容等を伝えて予習を促す。
- ・英語教材活用を更に進める。
- ・学生とのコミュニケーションを維持・向上するためにアクションシート（フィードバック用）を導入する。
- ・視覚教材も活用し、学生の国際看護及び異文化看護のイメージ作りを助ける。

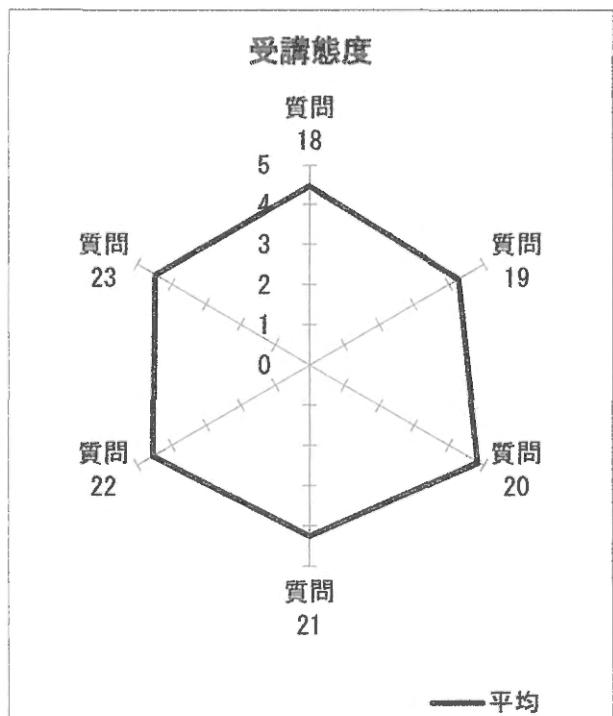
科目コード 981 (2017年度 後期)

看護学部 看護学科 永田 耕司 カウンセリング論



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.7	4.7	4.4
質問 8	4.6	4.7	4.5
質問 9	4.6	4.6	4.4
質問10	4.6	4.6	4.4
質問11	4.6	4.6	4.4
質問12	4.3	4.4	3.5
質問13	4.5	4.6	4.1
質問14	4.5	4.6	4.1
質問15	4.5	4.5	4.0
質問16	4.4	4.5	4.1
質問17	4.5	4.5	4.1
平均	4.5	4.6	4.2

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.5
質問19	4.3
質問20	4.8
質問21	4.3
質問22	4.5
質問23	4.5
平均	4.5

- 質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
看護学部	看護学科	永田 耕司	カウンセリング論	70名

2017年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2017年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

今回、6回目の評価となった。カウンセリング論では、実際的に患者や家族とどうコミュニケーションをしていくかについて、実際の事例（ターミナルケア、在宅ケア、学校現場など）を用いてのやりとりについてグループワークを取り入れてきている。このように、事例を交えながら、学生にとってわかりやすいように心がけて授業を行ってきている。

結果は質問7「授業目的・内容の十分な説明、シラバスに沿った実施」が4.7点と昨年の4.4点より上がっていた。また最も低得点であったのが、質問12の教員の授業環境に対する配慮が4.3点であったが、昨年の4.0点より上がっていた。

質問7について高かったのが、質問8の時間厳守から質問11の授業のわかりやすさであった。看護師が患者や家族に対してカウンセリングがどのように使われていくのかについて、その必要性・重要性についての確認を今回は十分に行えたと考えられる。カウンセリングが看護にどのように必要かについて内容の十分な説明を行ってきた結果になったと考えられる。ただ質問8の授業時間厳守については昨年は4.8点と高かったが、今回は下がっていた。質問9の教員の話し方が4.6点と昨年の4.3点と比べて上がっていた。よりわかりやすく、早口にならないように心がけてきた結果であると考える。質問11の教員の説明のわかりやすさも4.6点と昨年4.3点と比べて高かった。事例を多く交えて、より実践的にわかりやすく説明している。また、板書もできるだけしないで、話し方も早口にならないようにゆっくりと行っているので、評価が全般的に上がっていたと推察される。更に今後とも、より実践的に、よりわかりやすい配布資料にして、理解度をより深めていきたい。

II. 2018年度に向けての取り組み

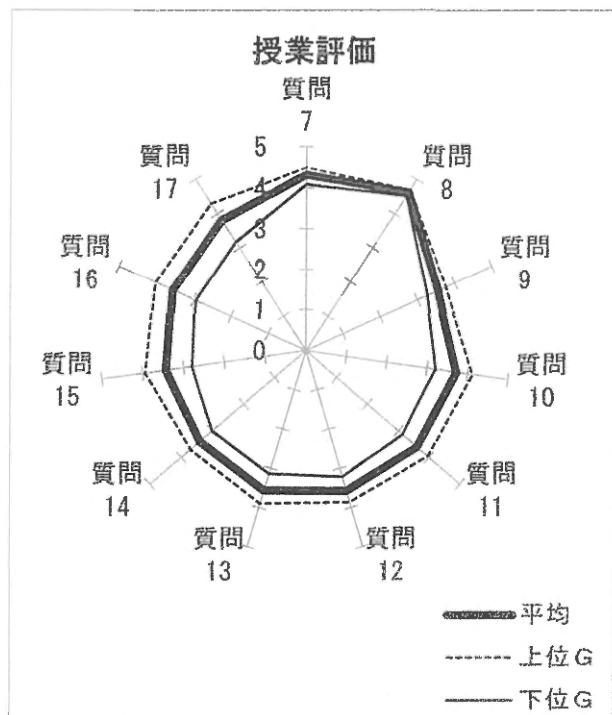
2018年度担当予定科目名：カウンセリング論

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

全実施科目の平均点は4.6点であった。ほぼ、平均点ということである。更なる向上を目指して、今後も、事例を交えながら、更にわかりやすい配布資料を用いながら理解度を高めていきたい。学生が興味・関心が深まるような具体例を上げながら、より工夫した授業を心がけていきたい。

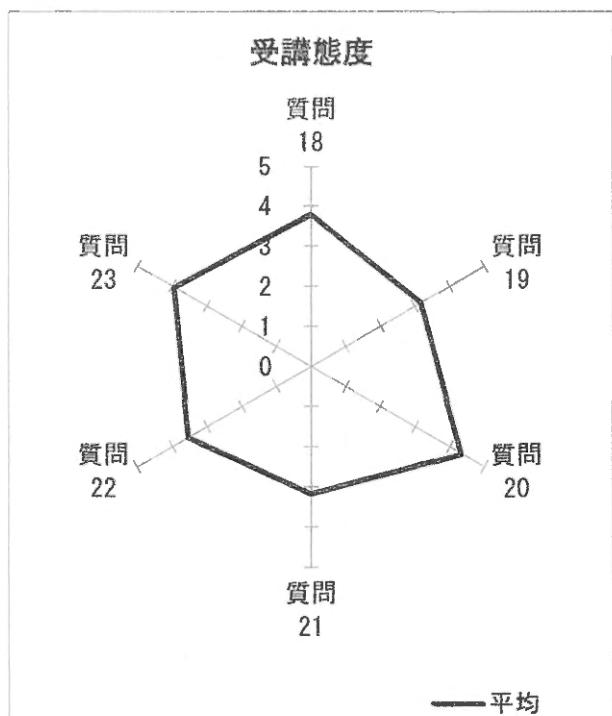
科目コード 991 (2017年度 後期)

看護学部 看護学科 永田 耕司 健康管理概論



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.3	4.5	4.1
質問 8	4.6	4.7	4.5
質問 9	3.5	3.8	3.3
質問10	3.7	4.1	3.2
質問11	3.6	4.0	3.1
質問12	3.6	3.9	3.2
質問13	3.6	3.9	3.1
質問14	3.4	3.7	3.0
質問15	3.4	3.9	2.8
質問16	3.6	4.0	3.0
質問17	3.8	4.3	3.2
平均	3.7	4.1	3.3

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	3.8
質問19	3.2
質問20	4.4
質問21	3.2
質問22	3.5
質問23	3.9
平均	3.7

- 質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
健康生活学部	食生活健康学科	永田 耕司	健康管理概論	70名

2017年度後期授業評価アンケート集計結果： 教員による分析・評価と次年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

今回は平均評点が3.7点と低得点であった。健康管理概論は食生活健康学科では国家試験対象科目であるため、1年次からその内容を踏まえて、前期の公衆衛生学と同じように3回の小テストを取り入れた形式の授業を行って、定期試験・出席点とあわせて総合評価を行ってきてている。健康管理概論では、毎年、3種類の資料を配布しながら説明を行っている。昨年に引き続きの評価となった。そのような中で2017年度では質問8「教員の時間厳守」のみが4.6点と、昨年4.4点に引き続き高得点であった。次いで、質問7「授業目的・内容の十分な説明、シラバスに沿った実施」も4.3点と4点台であった。それ以外の質問9以降は、のきなみ3点台と下がっていた。質問10「教材・板書等の効果的使用」は3.7点（昨年度3.9点）今年も配布資料が3部にわたり、学生にとってはどの資料の説明をしているのかわかりにくいという意見をいただいている。問8に次いで高いが、問17を含めて4点台であったが、それ以外は3点台であった。最も低いのは、質問14「学生の理解度の確認と授業への反映」、質問15「授業を理解できたかと思うか」の3.4点であった。わかりやすく、かつゆっくり説明したつもりであったが、更にわかりやすく心がけていかなければならぬと痛切に感じた。内容については、栄養や食に関する今日的な内容を入れて、よりわかりやすく説明を行ったつもりであったが、昨年と比べて低い点数であったのは残念である。より理解度を深めていくために、よりわかりやすい説明を心がけていきたい。今後も引き続き、実際の栄養指導で使えるような内容で説明していきたい。今後も、より評価が高まるように、日々努力していきたい。

II. 次年度に向けての取り組み

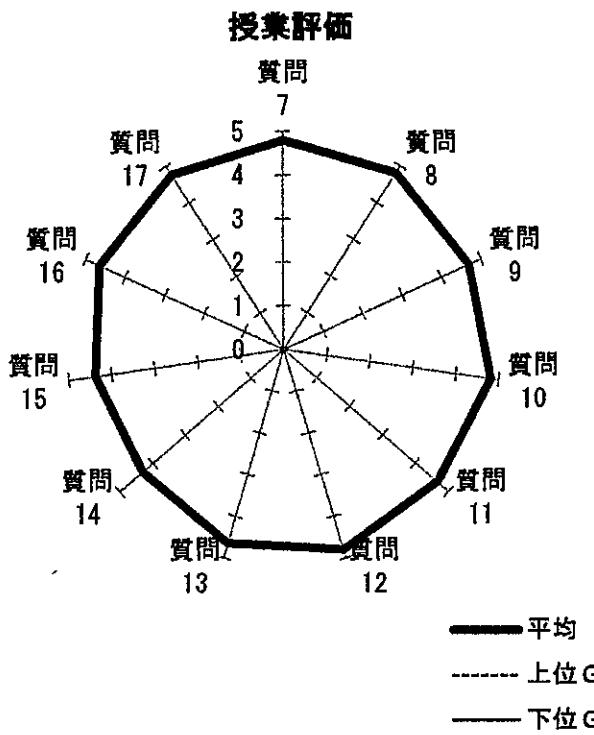
2018年度担当科目名：健康管理概論

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

全体の評価点数が4.6点であるのに対して、健康管理概論は3.7点と非常に低かった。何らかの抜本的な対策が必要なのかもしれない。他の授業に比べて、この教科が一番力を入れてきているつもりであったが、結果的に最も低い評価を受けた。最近の知見を入れながら、毎年同じように授業を行ってきているが、評点が大きく異なる年がある。より深い分析を行って、更なる向上を目指したい。今後も引き続き、現在の栄養や生活習慣病の常識とエビデンスが異なることが多いので、そのエビデンスを紹介していきながら、正しい知識の学びを実践していきたい。

科目コード 41961 (2017年度 後期)

看護学部 山中 真弓 小児看護学実習



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.8	4.8	#DIV/0!
質問 8	4.8	4.8	#DIV/0!
質問 9	4.7	4.7	#DIV/0!
質問10	4.8	4.8	#DIV/0!
質問11	4.7	4.7	#DIV/0!
質問12	4.8	4.8	#DIV/0!
質問13	4.7	4.7	#DIV/0!
質問14	4.3	4.3	#DIV/0!
質問15	4.4	4.4	#DIV/0!
質問16	4.7	4.7	#DIV/0!
質問17	4.8	4.8	#DIV/0!
平均	4.7	4.7	#DIV/0!

質問 7：実習は、実習要綱・要領に沿って進められたか

質問 8：オリエン・実習時の教員の話し方の明瞭さ

質問 9：オリエン・実習時の資料、機器等の効果的な使用

質問10：教員の説明のわかりやすさ

質問11：教員・スタッフの連携、実習環境への配慮

質問12：質問する機会の設定と適切な対応

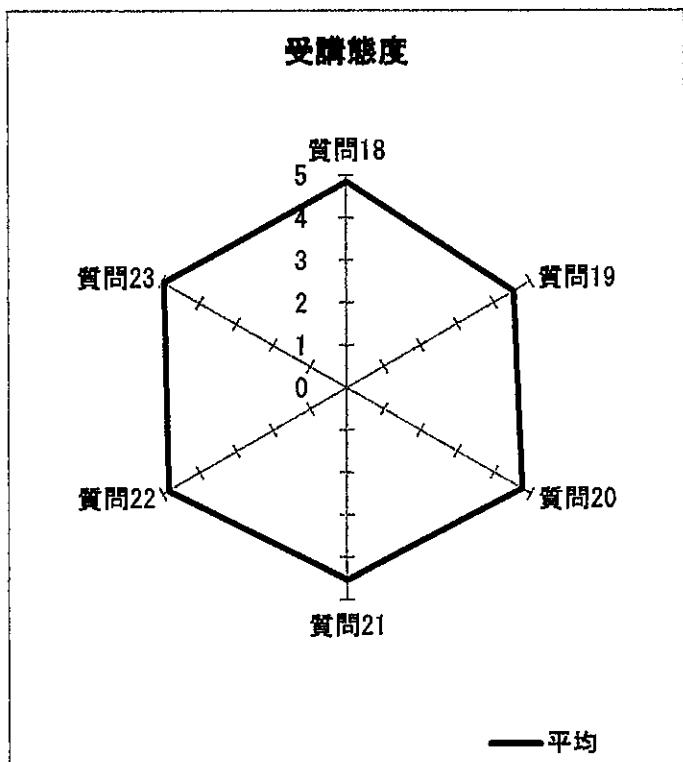
質問13：学生の理解度の把握と、実習への反映

質問14：実習のレポートや課題の量の適切さ

質問15：この実習で自身の目標を達成できたか

質問16：実習は、看護への興味・関心・意欲を引き出したか

質問17：新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.8
質問19	4.5
質問20	4.8
質問21	4.5
質問22	4.8
質問23	5.0
平均	4.8

質問18：（自分は）実習に真面目に取り組んだと思うか

質問19：実習要綱等による内容や到達目標の事前理解

質問20：欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）

質問21：実習を受けるにあたり、予習・復習をおこなったか

質問22：学生同士で協力することができたか

質問23：服装・言葉遣いへ配慮、教員・指導者の指示の遵守

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
看護学部	看護学科	山中真弓・畠知華子	小児看護学実習	74人

2017年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

小児看護学実習は、実習期間が2週間と短く、スケジュールが1週間を病棟・小児科外来、2日間を保育所、1日間をこども医療福祉センターの見学実習で構成している。今年度は以下の課題をもって指導に取り組んだ。

1. 疾患や入院が小児と家族にどのような影響を与えているのか、現在の患児の状態の把握に苦慮する学生が多かったため、引き続きフィジカルアセスメント能力の強化に取り組む。
2. 学習目標を到達するためには、どのように学習に取り組めばいいのかを表し、学生の自己学習力の向上を目指した評価基準を設定する必要があるため、ループリック評価を作成する。

以上の取組みにより、全員実習目標に到達でき、学びを深めることができ、授業評価の平均は4.7点であったと考える。

1については、急性期の患児を持つことが多いが、患児の状態の把握に苦慮する学生が多いため、次年度は、小児看護用のシミュレーターの購入し、より現実に即した観察や援助の手ができるよう演習の工夫を考えている。

2については、ループリック評価に取り組むことにより、評価基準が明確となり、学生は、何をどのように学べば良いのかが分かり、そのために必要な自己学習に取り組んだことによると考える。このような学習姿勢が、多くの看護師や医師、臨床スタッフから指導を得られた結果と考えている。また、ループリック評価を用いることは、教員の指導も焦点化した明確な指導となり、実習指導者と教員が密な連携をとることにもつながったと考える。

質問14「実習のレポートや課題の量の適切さ」については4.3点と一番低いが、昨年度より0.1点上昇している。記録が手書きであることが理由と考える。次年度は、患者情報を記載しないレポートに関しては、大学のシステムであるポートフォリオのレポート機能の活用を検討している。

II. 2018年度に向けての取り組み

2018年度担当予定科目名：小児看護学実習

以下を来年度の課題としてあげ、学生の学びを深めることができるように取り組む。

1. 小児看護における急性期看護の教育の強化
2. ループリック評価を用いた効果的な教育